

☆年間第7主日(2月19日)の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (レビ記 19章 1-2、17-18節)

主はモーセに仰せになった。

イスラエルの人々の共同体全体に告げてこう言いなさい。

あなたたちは聖なる者となりなさい。あなたたちの神、主であるわたしは聖なる者である。

心の中で兄弟を憎んではならない。同胞を率直に戒めなさい。そうすれば彼の罪を負うことはない。復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

答唱詩編 (詩編 103)

神はわたしの罪をゆるし、痛みをいやされる。

わたしのいのちを危機から救い、いつくしみ深く祝福される。

神は恵み豊かに、あわれみ深く、怒るにおそくいつくしみ深い。

父が子どもをいつくしむように、いつくしみは神をおそれる人の上にある。

天が地より高いように、いつくしみは神をおそれる人の上にある。

東と西が果てしなく遠いように、神はわたしたちを罪から引き離される。

第二朗読 (使徒パウロのコリントの教会への手紙 I 3章 16-23節)

皆さん、あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされるでしょう。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです。だれも自分を欺いてはなりません。もし、あなたがたのだれかが、自分はこの世で知恵のある者だと考えているなら、本当に知恵のある者となるために愚かな者になりなさい。この世の知恵は、神の前では愚かなものだからです。

福音朗読（マタイによる福音書 5章 38－48節）

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。」

「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるだろうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるだろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

ようやく寒さが峠を越えたようです。これからは少しずつ春めいてくるでしょう。それとともに教会の暦では四旬節が始まります。今週の水曜日は灰の水曜日になります。ミサは夕方の 19 時からになりますのでお間違いのないようにしてください。典礼的には灰をいただけるのはこの水曜日だけになりますのでご注意ください。先週の説教ですが、10 分以内だったようです。緊張しました。これからも長くならないように努めます。

第一朗読（シラ書 15章 15-20節）

レビ記の中心部分です。律法の主題である「神が聖であるように、あなたたちも聖なるものにありなさい」とのモーセの言葉が響いています。聖なるものとは何なのでしょう。それは日常生活の中で、兄弟を恨まないこと、同胞の良くないことを戒めること、復讐しないこと、そして恨みを抱かないことが挙げられています。どれも社会生活を送っていくうえでとても大切なことです。いまでも社会の事件として取り上げられているのはほとんどがこの要件に当てはまっています。「自分を愛するように、隣人を愛しなさい」とはまさにイエスの言葉なのです。

答唱詩編（詩編 103）

この詩編の中では、神の聖性が歌われています。すなわち、「罪を許し、痛みを癒す」、「憐れみ深く、怒るに遅く」、「私たちを罪から引き離される」と。

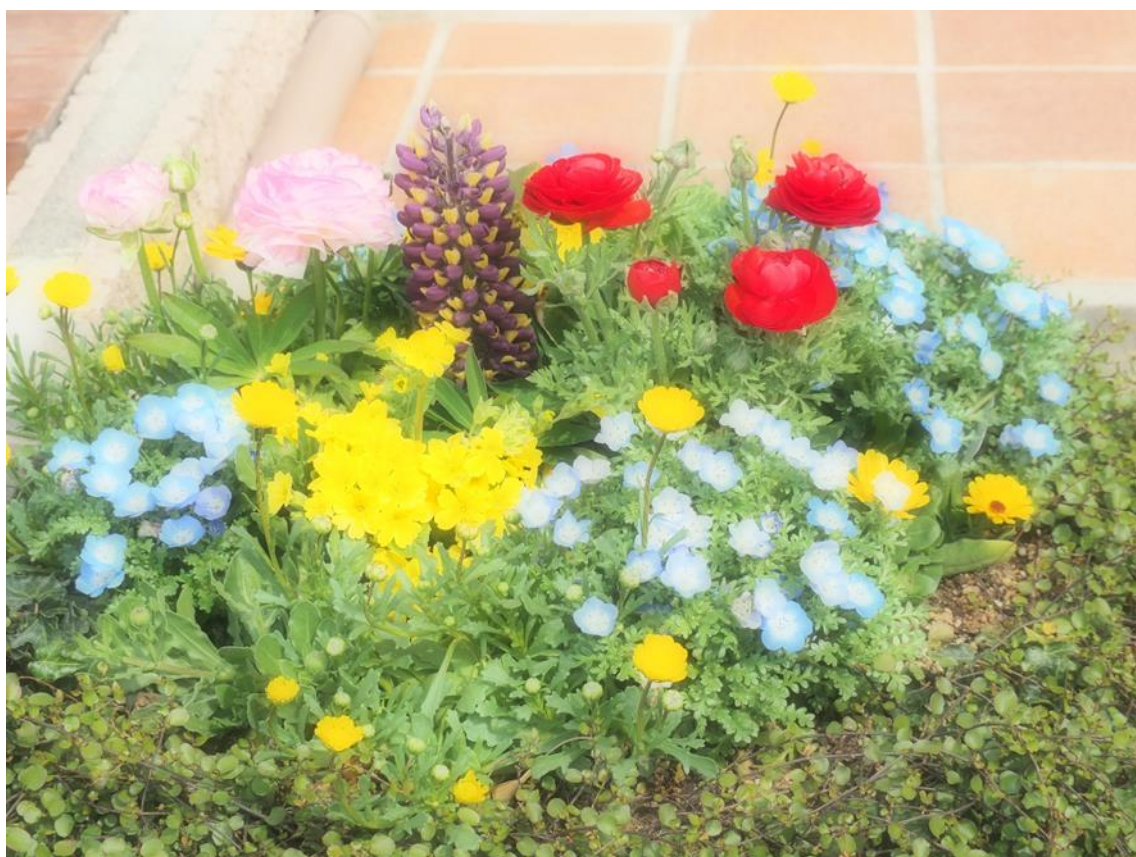
第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙Ⅰ 1章 6-10節）

「あなたがたは神の神殿である」とパウロは主張しています。ですから「あなたがたは聖なるもの」なのです。ですから「神の霊が自分のうちに住んでいると知らなければならない」とパウロは言っています。神の神殿である自分を欺いて汚してはならないのです。また、教会の中にある分裂も神の前にはふさわしくないのです。ケファとは何者ですか。パウロとは何者ですか。アポロとは何者ですか。皆キリストのもの、神のものなのです。勘違いをしてはいけません。

福音朗読（マタイによる福音書 5章 17-37節）

イエスは律法について修正を行っているように見えます。しかしそれは修正ではなく、より深めているのです。規定通りでは足りないと言っておられ

るのです。律法の本来の精神から言えば、この程度で良いのではなく、もう
一步踏み込んだ対応が必要なのです。「左の頬も・・・」「上着も・・・」「ニミリオ
ン行きなさい」「背を向けるな」なのです。イエスの要求は厳しいものです。
そしてイエスは主張します。「あなたがたの天の父が完全であられるように、
あなたがたも完全な者となりなさい」と。この完全とは「自分を迫害する者
のために祈ること」「善人にも悪人にも太陽を登らせ、雨を降らせる」、その
ように御父の「慈しみ深さ」の様に広い心をもっていくことをイエスは私た
ちに求めているのです。これがイエスの福音を生きる道なのです。



春はここまで

P.S.

もうすぐ四旬節です。キリストの復活を準備する季節です。徒に自分を
卑下するのではなく、前向きに積極的に善い行いに努めましょう。まず手
始めにあなたは誰のために祈りますか？

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光